

# 第1回「欧州に学ぶ脱・無縁社会への挑戦」

日時…5月21日(月)午後5時～6時30分 場所…ホテルモントレーエーデルホフ札幌  
在札幌スウェーデン名誉領事館、(財)スウェーデン交流センター、ホイスコーレ札幌、北海道スウェーデン協会との共催

講師 三菱総合研究所プラチナ社会研究センター主任研究員

## 松田 智生さん

そうした状況下で年間1千組の同居が成立している。

### 一歩踏み出す勇気を

勤勉、真面目、控え目と国民性が日本人と似ているスウェーデンでシニア劇場のような試みが成功していることから日本でも可能とし、日本に求められているのは、勇気をもって一歩踏み出し、脱・無縁社会に挑戦することではないか、と提言する。新たな社会を創造するイノベーションは、テクノロジーだけでなく、人とのつながりや共助といった社会の仕組みや意識を変えるソーシャル・イノベーションも重要で、それが脱・無縁社会を実現すると講演を結んだ。

欧州のコミュニティ再生について、先駆的な事例を紹介している講師は今回、スウェーデンの「シニア劇場」と「退職者派遣事業」、フランスの「世代間同居」と「隣人祭り」の四例をとりあげた。

### 団地再生にソフト面を

そのひとつ、スウェーデン南部の都市、マルメ市の「シニア劇場」は、市内にある団地の再生にあたって建物や施設などハード面にとどまらず、ソフト面の重要性に視点を向けた例である。特徴的なことは、団地内に客席60人規模の劇場を設けたことである。

独居老人や高齢者の孤立死が問題になり、見守りコストが行政の負担になっていった中、高齢者の社会参加を促す目的で、この劇場を開設した。今、劇場内では高齢者が歌い踊り、観客は笑顔で声援をおくり和やかな情景が見られ、高齢者の引きこもり予防や団地の賑わいに大きく貢献している。

### 独居老人と学生の同居

個人主義の国といわれるフランスでも脱無縁社会への挑戦が始まっている。

パリ市の人口約1200万人のうち高齢者はおよそ200万人、75歳以上の独居高齢者、特に女性は50%に迫る。そこで、独居の高齢者と家賃の高騰や都会での孤独に悩む学生が同居する「ひとつ屋根・ふたつ世代」政策が考え出された。同居にあたっては、ほどよい距離を保ちながら、週何回か一緒の夕食、買い物支援、家賃や経費の分担など約束事を決めておく。NPOが間に入り、事前に双方の価値観、趣味、ライフスタイルなど納得がいくまで面談を重ねた上での「絆」の契約である。



三菱総研 松田氏